■4-4 講座設計や講義内容

資格スクエアでは、弁理士試験に合格するために必須の習得すべき能力を下記のように考えています。

① 条文の要件・効果について説明できる
② 条文ごとの趣旨について説明できる
③ 条文の文言解釈（判例含む）を説明できる
④ 試験という形式に当てはめて上記の力を発揮するためのテクニック

上記①～③の中でも根幹になる部分をまず基礎講座で押さえていただきます。④は、特に論文式試験に関するものであり、論文対策講座の中の「書き方講座」「解き方講座」にてテクニックを学んでいただきます。そして、「実践講座」にて繰り返し練習をする過程で習得していただきます。

「実践講座」は、ご自身で答案を書いていただき、授業にて問題の解説を聞いていただくという流れでの受講となります。オプション講座の論文ゼミは、書いていただいた答案を講師に実際に採点をしてもらい、フィードバックを受けると共に解説を聞いていただく内容になります。

●講座設計のベースにある考えは「効率性」

・合格のためには完璧主義に陥らない
⇒試験勉強のゴールは、試験に合格することです。学者や研究者を目指すわけではありません。ただでさえ勉強すべきことが多い試験ですから、特に時間の限られる社会人の方にとって、やるべきことを減らすことは１つのポイントになります。
そこで、資格スクエアでは合格するために必要な量に絞ることを重要視しています。

・無駄のない学習順序
⇒勉強期間は長期間になりますが、やるべきことが多いため効率性を意識する必要があります。効率化の方法は色々と考えられますが、

大きな要素として「どの順番で勉強をしていくか」という点があげられます。

この点、資格スクエアでは【基礎講座】⇒【論文対策講座】⇒【短答対策講座】の順を推奨しております。理由としては、下記の 2 点になります。

① **論文式試験は、枝葉の論点より主に基本的な内容が中心に問われる**

ベースとなる基礎的な内容を学んだ後に、論文式試験対策を行うことで合格に欠かせない基礎力の強化を行なうことができます。基礎力なくして、枝葉の論点を学んでも吸収率が悪く、また、知識の維持に労力を要し非効率となります。

② **短答式試験が難化しているからこそ、試験直前期は短答式試験の勉強に専念すべき**

短答式試験直前期は、短答対策に専念すべきですが、短答式試験終了後、論文式試験までは約 1 ヵ月しかなく十分な時間がありません。従って、事前に論文式試験対策もしっかりやっておく必要があるのです。